

## 岩橋丘陵の麓に営まれた中世の屋敷跡

### ～岩橋Ⅱ遺跡の発掘調査～

#### 岩橋Ⅱ遺跡とは

紀の川の南岸、岩橋山塊の北麓を小さく蛇行しながら西流する宮井川は、岩橋千塚古墳群の北麓で花山丘陵の東端に向かい流れを変えます。

岩橋Ⅱ遺跡は、その屈曲部の南西側、北から南へ緩やかに傾斜する斜面地に営まれた古墳時代の初めから江戸時代の集落（ムラ）の跡です。

これまでの発掘調査において、遺跡範囲の中央に古墳時代初頭から鎌倉時代の当時の人々が生活した痕跡や遺物がみつかり、その南側には低湿地が広がることが分かってきました。

現在の宮井川は、両岸に人口堤防が築かれ、流路も付け替えや直線化された部分もありますが、岩橋Ⅱ遺跡は宮井川蛇行部の南側に形成された自然堤防上に営まれた集落と考えられます。

#### 発掘調査から分かったこと

調査では、古墳時代の初め頃の住居である竪穴建物のほか、平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物、柵、井戸、溝、土坑など人々が生活した痕跡がみつかり、その総数は約520基を数えます。

みつかった生活の痕跡は、古墳時代初頭、また平安時代から鎌倉時代にかけてものが主体となり、岩橋千塚古墳群における古墳築造の全盛期である、古墳時代中期末から後期のものは確認できませんでした。

今回は、平安時代から鎌倉時代の屋敷地内の様子をうかがうことができる掘立柱建物とそれを区画する溝などがみつかりましたのでパネル写真や、出土遺物の一部を展示し紹介したいと思います。



調査地から岩橋千塚古墳群を望む（北から）



調査区全景（東から）

会 期 令和3年11月17日（水）～11月26日（金）

時 間 8時30分～17時15分（ただし、木曜日は19時まで）

場 所 和歌山市役所1階 市民ギャラリー